

# 第1回社会教育・スポーツ専門委員会 委員意見要旨

平成25年10月11日

## ① 第6次山形県教育振興計画（仮称）の骨格（素案）について

意見者	意見概要（回答または対応を含む）
栗田委員	<p><b>【計画の骨格】</b></p> <p>非常に精査された内容となっていると思う。一点だけ述べさせていただくと、どこが目指すところなのか、絞り込んでやる部分もあっていいのではないかと思う。総論としては、非常によくできた内容である。</p>
角屋委員	<p><b>【イメージ図の記述について】</b></p> <p>骨格の部分については、イメージ図（資料4）がわかりやすく、良いと思う。しかし、社会教育に関する部分について、「家庭と地域の教育力を高める」ということで、非常に抽象的であるため、今日の協議で出される課題や意見など言葉を盛り込み、より具体的にしてほしい。</p>
【回答】 駒林総務課長	<p>イメージ図は、あくまでも計画の全体像ということで、具体的な記載はしていない状況である。具体的な方向性等については、これからの専門委員会の中で御議論いただき、それを踏まえて肉付けしていければと思う。</p>
呉委員長	<p>実際の計画においても、このようなイメージ図は盛り込まれるのか。</p>
【回答】 駒林総務課長	<p>今後御相談させていただき、決めていきたい。</p>
角屋委員	<p>最終的にどうなるかは別として、学校教育の方では文言が出ているので、社会教育に関することについても記載した方が良いのではないかと思ったところである。</p>
黒田委員	<p><b>【地域に誇りを持つ意識の醸成】</b></p> <p>前回の第1回検討委員会の中で、「山形らしさ」ということで議論が盛り上がったが、「自尊感情」を育む際に、山形県の「県尊感情」を育てていくということも盛り込んでみてはどうか。</p> <p>地域の人や自然、歴史に直接触れ、関わることは、山形の良さを知り、「山形らしさ」に誇りを持つことにつながる。そのようにして醸成した地域を大切にする「県尊感情」というものを自尊感情と共に育てていければと思う。</p>
呉委員長	<p>「自尊感情」と今回の目玉のひとつでもある地域全体の誇りというものをつなげるという意味でも、大切な視点である。ぜひとも盛り込んでもらいたいと思っている。</p>
【回答】 駒林総務課長	<p>「山形らしさ」というものをどのような形で計画に盛り込んでいくかということは課題である。今、黒田委員からあったように、「自尊感情」の醸成につなげていくところについても盛り込んでいきたいと思っている。</p> <p>前回の学校教育の専門委員会の中でも、「つなぐ」というキーワードが出された。その中のひとつに、過去から未来に対して、どういう形でつなげていくかというこ</p>

	<p>とが挙げられた。</p> <p>これまで、教育県山形として、山形らしい教育を行ってきたが、今度はそういったものを踏まえてどのような教育をしていくのかという課題がある。</p> <p>そのようなことも含めて、「山形らしさ」を盛り込んでいきたい。</p>
落合委員	<p><b>【地域を知る仕組みづくり】</b></p> <p>地域を知り、知れば地域を好きになるということがたくさんある。ただ、学校教育だけでは難しいので、休日等を利用した、地域を知る仕組みを作らなければならない。小さなことでも、地域の方々と子どもたちが一緒になって、地域を知り、好きになるような体験ができる仕掛けが重要である。</p>
呉 委員長	<p>地域を知るためには、時間と場所とそれに関わる人々のネットワークといったことが必要であり、そのための仕掛けを考えていかなければならない。</p> <p>総合的な学習の時間が減り、運動力、学力の向上についても力を入れていかなければならない状況の中で、地域を知る時間をどのように確保していくかが重要ではないか。そのためには学校教育の中で主体的にやっていくだけでなく、地域の人々がイニシアティブをとってやっていく必要がある。</p>
黒田委員	<p>海外に行ったときには、自分たちの地域、伝統などを話すことで、敬意を持ってもらうことができる。それこそ真のグローバル化というものであると思う。そのような本当のグローバル化ということにつなげていくためにも、自分たちの地域を知るということは大切である。</p>
呉 委員長	<p>地域を知り、地域の誇りを育てるために、学校教育のなかなか時間が取れない中で、どういった工夫が考えられるかお聞かせ願いたい。</p>
佐藤生涯 学習振興 室長	<p>地域を知るということ、それにより地域を好きになるということは大変重要であるが、呉委員長がおっしゃったように、学校教育だけでは限界があり、社会教育の出番であると感じている。</p> <p>具体的な取組みとしては、「学校支援地域本部」の事業で、地域の方々から学校に入ってもらい、教育ボランティアとして活躍していただいている。昔であれば、子どもが外で遊んでいるとその地域の人から教わっていたようなことについて、学校の中に入り込んで教えていただいている。子どもたちだけでなく、地域の人々にとっても生涯学習の視点から非常に重要である。</p> <p>また、「放課後子ども教室」の事業では、学校が終わってから、公民館等で地域の方々子どもたちの面倒を見てもらっている。主に体験活動や学習活動を行っている。これは、かなり広まってきている。</p> <p>そして、「ふるさと塾」の事業では、賛同団体が280ほどあり、地域の伝統文化等を伝承している。子どもたちにとっては、大人と関わることで社会力が身に付き、地域を知ることにつながる。一方で、大人たちにとっては、生涯学習の場となり、地域の活性化にもつながっている。</p>
呉 委員長	<p>遊佐町の西遊佐小学校では、総合的な学習の時間の中で、既存のものを伝承していくということだけでなく、地域の課題を子ども自身が見つけ、そこから疑問がわいて、課題解決につなげていくという総合的な学習を1年かけて行っていた。</p> <p>学力向上ということを考えても、地域を良くしていきたいというところから来る</p>

	<p>学習意欲と、単に自分の点数が上がれば良いというところから来る学習意欲とでは、大きな差がある。その意味で、自分たちが生まれ育った地域にどんな課題があり、それを解決することに資する人間になりたいという意欲を引き出すような仕組みも大切である。</p>
角屋委員	<p><b>【社会教育施設の活用と指定管理者制度】</b></p> <p>地域を知ってもらうための社会教育施設に関して、指定管理者制度を導入している施設についてはどうしても二極化が進んでいる。体制が整っているところは良いが、基盤がないと、施設があるというだけで、中身は何もないところや閉館してしまっているところが多い。コミュニティセンターについても、活動の顕著なところがある一方で、建物が存在しているだけというところもある。かつては、高齢者ととともにイベントをやり、子どもたちとつながりがあったところも閉館したりして、かなりの施設がなくなっている。</p> <p>指定管理者制度自体がうまくいっていない状況の中であるが、施設も利用してもらわなければ社会貢献ができない。施設活用の重要性、必要性を感じることができれば、施設自体も頑張ることができる。</p> <p>先ほど呉委員長からも時間と場所と人が大切とあったように、施設も人があってこそよりよい活動ができるので、施設の活用ということについても、考えていかなければならない。</p>
池田委員	<p><b>【地域・伝統を語る機会】</b></p> <p>伝統芸能や地域の文化というものを考えたとき、人に話す機会というものがあまりないと感じる。もっと地域を知る機会があればいいということだけでなく、人に話す機会ということも必要である。</p> <p>スポーツは、様々な文化を持った人が集まる場なので、スポーツの機会を通じた伝統文化等の発信という仕掛けもできるのではないか。</p> <p>山形を出て、日本を出たときに、日本人として自慢して話すことは、やはり自分が育った地域のことであり、食べ物であり、環境の素晴らしさである。そのようなことを話すことで人としての自信にもつながるので、そういった視点も大切ではないか。</p>
黒田委員	<p>池田委員のおっしゃる通りであると思う。山形、地域のことを誰かに表現し、伝えることは非常に大切。山形の自慢をして、素晴らしいと言われるとまた勇気づけられて、さらに山形を知っていくことにつながる。そういった仕組みができればと思う。</p>
涌井委員	<p><b>【6教振の内容の周知方法】</b></p> <p>前回の検討委員会の中で出た意見等もよく反映された素晴らしい骨格案となっていると思う。そこで感じたことは、この素晴らしい山形県の計画をどのようにして市町村そして末端まで浸透させていくのかということ。各市町村でも色々考え、取組みを行っているが、目指すところは一緒であると思うので、そういった意味でも、考えをお聞かせ願いたい。</p> <p>また、各青年会議所等でも、地域活性化のために様々な取組みをしているところがある。そのような活動をしている方々に対して、県として支援を行っていければ、</p>

	よりスムーズに取組みが進むのではないかと思います。
【回答】 駒林総務 課長	<p>市町村への計画を浸透させていく方法のひとつとして、ある程度の計画ができた段階で、現場を含めて議論し、意見をいただく機会を設けたいと思っている。その上で、もう一度最終的な計画を示していきたいと考えている。</p> <p>もうひとつは計画ができた後の対応であるが、それぞれの地域で説明会等を行うなどして、各市町村にも浸透させていきたい。</p>
呉 委員長	<p>今回の計画は学校現場だけでなく、広く県民全員に語りかけていく内容を含んだ計画である。</p> <p>そのためにも、まずはわかりやすい、心に訴える内容となるように配慮いただければと思う。</p>
後藤委員	<p><b>【いのちの教育の根源について】</b></p> <p>助産師として、学校や親、祖父母にいのちの話をしている。</p> <p>「いのちは大切だ、大切にしよう。」とはよく言われるが、「あなたが大切だ。」と言われたことのない子が多いことに気付かされる。輝く大人がいないと子どもも輝かない。大人が優しくないと子どもも優しくなれない。極端な例では、面倒だから親になんかなりたくないという子がいるが、それは「面倒だ」と言う親を見てきたからではないかと思う。</p> <p>山形でのびのび育ててほしいと思っても、認めてもらえない寂しさから背伸びをして都会に出て行く子がいる。</p> <p>まずは、一人一人の子を大切にすることが大事。また、自分の生まれた意味をわからないまま大人になり、親になっている人も多く、祖父母になって自分の子育てを後悔する人もいる。それを思うと、一人一人が輝ける地域を大事にしていけないといけなさと感じている。</p>
呉 委員長	<p>計画の核心部分になるところかと思う。地域の誇りということで、伝統などが取り上げられてはいるが、親、家庭、地域があなたを大切にしているんだと伝えること。そして、それを感じるからこそ地域に誇りや感謝の気持ちが生じてくる。</p> <p>どんなに素晴らしい地域や伝統があっても、そこで自分が大切にされていなければ、地域に残りたい、地域を誇りに思うという気持ちは生まれないと思う。後藤委員の発言を計画の中にどのような仕掛けを持って実現させるかというところをこの会議の中でも議論していきたい。</p>

② 社会教育・スポーツ分野に係る検討課題について

意見者	意見概要（回答または対応を含む）
後藤委員	<p><b>【道徳読み物資料集】</b></p> <p>山形県道徳読み物資料集「いのちを見つめる」に（後藤委員の活動を）掲載していただいているが、これを見て、助産師になろうと思っているという子ども達がいる。身の回りで輝いている人を取り上げていくことも大事な活動ではないか。</p>
黒田委員	<p><b>【言葉の暴力】</b></p> <p>暴力、体罰のことについても触れられているが、これらのことと同時にあるのが、言葉の暴力である。言葉の暴力によりどれだけ子どもが傷ついているか。体罰だけにスポットが当たり、なぜ言葉の暴力にはスポットが当たらないのか。言葉の暴力により存在の否定をされた子どもたちは、もっともっと輝くはずであったのに、輝けなくなることもある。</p> <p>ただ、言葉によって地域の大人に励まされたり、子どもたちが真の人間として育つ糧となっているところもある。そのようなつながりも大切である。</p>
呉委員長	<p>前回の学校教育の専門委員会の中でも、「つながり」ということがキーワードとしてあったということであるが、つながるということは出会いがあるということである。出会って感動する。感動したからこそ、後藤委員のお話にもあったように、後藤委員と出会い、助産師を志そうとする子どもがいる。</p> <p>ただつながるということだけでなく、正しい大人と出会う時間、場所について、仕掛けを持って作っていくことが大切であると感じた。</p> <p>黒田委員から、体罰だけでなく言葉の暴力ということについてあったが、その点について事務局からあれば。</p>
<p><b>【回答】</b></p> <p>齋藤スポーツ保健課長</p>	<p>言葉の暴力については、今回作成したガイドラインで盛り込んでいるところである。スポーツの会議の中でも、言葉の暴力の問題性について出され、指導者にとっては大切なことである。</p> <p>ガイドラインに盛り込みながら、指導者、学校現場、部活動等でも子どもたちが勇気づけられるような言葉の力を発信していく必要があると感じる。</p>
呉委員長	<p><b>【課外活動のあり方】</b></p> <p>子どもたちが不登校になるなどの問題の多くの原因は、学校の授業だけではなく、体育系であるか文化系であるかに関わらず課外活動にあることが非常に多いのではないかと感じている。</p> <p>興味が中心としてではなく、勝ち負けが中心となってくると、選ばれた子どもたちだけが認められるようになる。選ばれなかった子どもたちも勝ち負け関係なく興味を持って楽しんで活動し、存在意義を認めてもらえるような仕組み作りが必要となる。</p> <p>課外活動になると、定まった方針がなく、各指導者に委ねられているような状態であると思う。このあたりについても考えていかなければならないと思う。</p>
黒田委員	<p>学校教育における言葉の暴力ということもあると思うが、家庭内での言葉の暴力についても含め考えていきたい。</p>

<p>後藤委員</p>	<p><b>【家庭におけるしつけ】</b></p> <p>家庭内での言葉をまず大切につかっているかどうかを考えたい。しつけではなく、押し付けになっていないか。夫婦間で挨拶が言えないのに、子どもに挨拶を押し付ける。すると子どもは挨拶するようになるが、それは表面上いい子のふりをしているだけ。その結果、挨拶のできるいい子だと思っていた子が、ほかの子をいじめているということもある。</p> <p>また、美しい姿や美しい立ち振る舞いは小さい頃から背筋を伸ばし、骨盤の中の筋肉を締めて立つことが大切だということを私たち大人が気付いていれば教えられる。筋肉を使い、しっかりまっすぐ静止して立つことができない人がいる。それは、楽な姿勢でいることを許しそのまま大人になっているから。今の親がそう育ててきているので今の親では気がつかない。それを直していくのは大変だが、今の中高生が親になったときに伝えられるようにしていかなければいけない。</p>
<p>角屋委員</p>	<p><b>【言葉のしつけ】</b></p> <p>しつけという漢字は、身へんに美しいと書く。そういう言葉を持つ日本人であることを誇りに思いたい。そして、その言葉や文字は読書などで培われてきている。その必要性については、前回の会議でも議論されたところ。</p> <p>言葉の暴力についても、言っているいいこと、どこまでが許されるのかということがわからない。小さい時からしつけとして教えて行くことが大事だと思う。</p> <p><b>【体罰について】</b></p> <p>体罰について、今のスポーツは励ますことで伸ばすとなっているが、かつては、信頼のうえに体罰が成り立つものと考えられていたこともあり、体罰がなくなるとスポーツで勝てなくなるのではないかと考えている人もいる。体罰について池田委員にお聞きしたい。</p>
<p>池田委員</p>	<p><b>【体罰から新しい指導法へ】</b></p> <p>体罰については、かつては問題が大きくなって初めて表面化するというところがあった。全面的に体罰はいけないということで、山形県でも撲滅宣言を出されるようになった背景には、「やはり、体罰はダメだ。」と皆が思っていたことがあるからだと思う。もう体罰で教え込む時代ではないという区切りをきちんとつけるべきだということにきている。</p> <p>手を出して教育をする行動を変えるのではなく、違った手段を使って、子ども達の行動を変えていくことを考え、皆で取り組んでいこうという段階になってきている。</p> <p><b>【しつけを支える正しい知識】</b></p> <p>先ほどしっかり立てないという話があったが、正しい立ち方、正しい歩き方を教えられてきていない。足のどの部分を使って、どう歩くのが正しい歩き方なのかということを教えないで、ちゃんと歩きなさいといっても正しくは歩けない。行動を変えるには正しい知識（正しい立ち方、歩き方、走り方）が必要。根底の部分をしっかり教えていただきたい。</p>
<p>黒田委員</p>	<p><b>【しつけの徹底の必要性】</b></p> <p>礼儀やマナー、作法について、専門で教えている。幼稚園から中学校、高校、大</p>

	<p>学、企業にまで出向いて教えているが、基本的なしつけの大切さを感じる。しつけが最終的に社員のマナー教育に行き着く。くつを踏まない、ゴミ箱にごみを捨てる、あいさつをするなどしつけをきっちりすることで山形県の子どもが輝いていける。</p> <p>美しさは、機能的でもある。どのように立ったら美しいかということは、どのように立つと機能的で正しいかということでもある。それは、体や精神の健康にもつながるものである。</p>
涌井委員	<p><b>【家庭教育の重要性】</b></p> <p>各論でいろいろな議論がでたが、やはり家庭教育の充実が一番大切だと感じている。ママ・ナビのインタビューの中で聞いた「人は、承認の欲求というものが高い欲求としてある。それが得られないと死を選ぶ。」という言葉が印象に残っている。今日の後藤委員の話はまさにこのことだと思ったところ。</p> <p><b>【親が集える場を】</b></p> <p>家庭教育は大事であり、それがなっていないと勉強もスポーツも何をやらせても身にならないと思う。調査票の中に、気軽に集まれる場、相談できる場が必要とあるが、そのとおりだと思った。学習機会とすると本来に来て欲しい人は来ない。幼児期の母親が集まる場はあるが、小中学校の子の親が集まれる場をつくることに力を入れていただきたい。</p> <p>県の事業で難しい場合は、市民団体に声をかけていただければ集まりやすい環境も一緒に考えて行くことができると思う。</p>
落合委員	<p><b>【保護者をつなぐコーディネートの必要性】</b></p> <p>公民館等を使って、子どもは子どもで遊ばせ、保護者がガス抜きをできるような場があるといいと感じている。それには、保護者が必要としている人とを繋ぐコーディネーターが大切になるのではないかな。</p> <p><b>【性の問題について】</b></p> <p>「あなたが大切」という承認を得ることのできない寂しさを抱えている子どもは、その心の穴を埋めるために異性へ向かってしまう傾向があると思う。未熟な上に、心の穴を埋めるために選択した相手とは幸せな人生を歩むことは難しい。穴を埋めるどころか、より傷つき穴が大きくなってしまいうケースがほとんどのように思う。お互い（家族）を大切に、幸せな人生を歩んでゆく子ども達を増やしてゆくには、どこからどのように教えて（伝えて）いったらよいのか。後藤委員にお尋ねしたい。</p>
後藤委員	<p><b>【生まれてくるいのちを歓迎するために大切にしたいこと】</b></p> <p>先ほど、中学生からと申し上げたが、一番小さな団体である夫婦の単位から考えたい。最初の小さな団体である家族をつくるときに、しっかりと相手を見極める目を育てたい。寂しさを埋めてくれる相手を求めてしまうと、できちゃった婚となり、できちゃったと言われた子は、その後悔の念を受けたまま大人になる。その子が素敵な家庭を築けるかという難しいと思う。</p> <p>素敵な恋をし、傷ついてもそれを支えられる友達関係を作りたい、友達関係を築くには相手を思いやれる子どもを育てていかなければならない。そのためには家庭内で家族がお互いに思いやる姿を見せることが大切。</p>

	<p>生まれた時に悪い子はいない。少しずつ歯車が狂うのだが、例えばうそをつくようになったときに、うそをついたことを叱るのではなく、うそをつくようになった理由を気付いてあげられる大人が周りにいることが大事である。</p> <p>家庭が居心地のいい場所となるように、一人一人を認め、孤独な父親、母親を作らないことが大切。自分が人から認められ、また、他人との出会いを大切にできる子を育てることが求められているのではないか。</p>
栗田委員	<p><b>【安易な考え方の見直し】</b></p> <p>いのちの問題について話が出たが、原点に立ち戻って考え、便利さやコスト偏重といった安易な考え方に流される社会風潮の見直しを女性の視点から角度を変えてやり直す必要があるのではないか。</p> <p>また、今までなかったこのような視点をどのように一人一人に理解してもらえるか、そのための手段が大切になると思う。</p>
呉委員長	<p>そろそろ時間ではありますが、これだけは発言したいという方が居られましたら発言をお願いします。</p>
黒田委員	<p><b>【SNS使用に関する教育について】</b></p> <p>近頃、フェイスブックによる事件も起こっているが、子どもにただ禁止するだけでなく、しっかりと使い方を教えないといけない。そうしなければ、色々な事件に巻き込まれる危険性がある。ラインの使い方、フェイスブックの使い方を子どもたちに教えることができる専門家が重要ではないか。</p>
池田委員	<p><b>【スポーツにおける指導者の育成】</b></p> <p>スポーツにおいては、子どもは間違えても負けてもくじけてもよい。そこで味わう悔しさを糧にして、どう次に進むのかということを知るいい機会がスポーツである。</p> <p>言葉や力で押さえつけて成長させるのではなく、どうやったら自分が修正、変化できるのか、その変わり方を教えることができる指導者を育成して欲しい。</p> <p><b>【食育について】</b></p> <p>朝ごはんを抜いている子どもがいると資料にもあるが、強いアスリート、強い人間は食べる力が備わっている。体に必要な栄養素を伝えることも大事だが、食べるということは自分の体を育てているということ子ども達に伝えて欲しい。</p> <p><b>【成長期の身体のしくみ・運動機能の学びについて】</b></p> <p>また、自分の体がどう成長、変化するのかということ成長段階毎に教える必要がある。指導者もそのことについて理解をし、助言、指導を行う必要がある。</p> <p>自ら学びたいという学習の意欲が大事だと思うが、人間の体の仕組み・機能について知る本が学校図書館には少ない。個別のスポーツの専門の本ではなく、どうやったらボールが遠くなげられるのかという疑問について、自ら調べられるような本の整備をもっと進めて欲しい。</p>
呉委員長	<p>涌井委員から今回の計画をどのように広めていくかということがあったが、私たち自身がシンポジウム等で地域に出向いていくことも大切である。自分たちで作った計画は自分たちで広めていくという気概も必要だと考えている。</p> <p>学力低下が言われているが、一番重要なことは、先ほど後藤委員からもあったよ</p>



	うに、「いのちを大切にすること。」であると思う。学力向上も大切ではあるが、そこからの方向性をしっかりと持ち、全体の計画を作り上げていただきたい。
--	--

# 第1回社会教育・スポーツ専門委員会における教育委員意見要旨

平成25年10月11日

意見者	意見概要（回答または対応を含む）
<p>長南 教育委員長</p>	<p><b>【計画の表現・目標について】</b></p> <p>計画では、文章で人の気持ちを興さなければならない。今、子どもたちは自らの気持ちを興さないままに色々な経験をさせられている。気持ちを興させる計画となるような文章表現にしていく必要がある。</p> <p>計画なので多くのことを望むが、そこには、色々なレベル、階層がある。山形県全体をみても、家庭、学校現場の実態は違う。実態が違うところに同じ目標を掲げて果たしていいのかと思うところもある。階層、レベルを十分に考慮した計画にしていかなければならない。</p> <p><b>【家庭教育・体験活動について】</b></p> <p>今、多くの課題が出てきているが、どこから直していくかということ、やはり家庭である。今の子どもは自発的な意志がないまま行動に移ってしまうため、確固たる理由があって行動する子どもを育てていかなければならない。</p> <p>今の子どもたちに大事にしてもらいたいことは活動・体験である。活動・体験を通して、自らの意志でやり通す気持ちを育てることが非常に大切である。</p>
<p>小嶋 教育委員</p>	<p><b>【家庭教育について】</b></p> <p>以前から言ってきたことだが、今の親が育てないで、子がより育たない。育っていない子がそのまま大人になっている。後藤委員から、そのまま大人になり、祖父母になっても後悔しているというその原因が「あなたが大切だ。」と言われたことがないということとお聞きして、これが問題の本質なのだと思う。自分が愛されていると感じる。そういう環境を大人が考えて作って行くことが大切だ。</p> <p>子の問題が起き、その原因をつきつめると家庭に問題があるといった場合であっても家庭の中だから踏み込めないと言われてきたが、一番の原因の元をどうしたらいいのかという思いがあった。今後はその方法についても考えていき、その具現化に尽力することが大切だと思う。</p>
<p>松村 教育委員</p>	<p><b>【困難時に立ち向かえる子の育成】</b></p> <p>「いのち」というものについて、どのように男性、女性が関わっていかなければならないか。また、自分の思いや体験を人と語りあうということがいかに大切かということについて聞くことができ、今日の話から生きるエネルギーをもらった思いでいる。また、山形県全体の教育について、私たちの思いが子ども達にしっかり届くような方法をいかにつくっていくか、それをしっかりと模索していくことが大事だと思う。</p> <p>子ども達を思い、いかに、よりいい環境をつくるかということをお話しているが、たとえ子ども達が劣悪な環境に陥ったときであっても、自ら対処して生きることができるよう、子ども達が成長していける教育環境を構築していくことも大切だと思う。</p>